

「家がいいね」 第25号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2006.6.6

雨が多く、不順な5月でした。身も心もこの天候から無縁ではありませんが。風邪も鬱も多く私も少し疲れ気味。こんな時、身体に抗(あらが)つては、いけないと、ようやく気が付きました。足らないことを責めても、何も変わりません。



ひとよは いっぱんのみち
ふたつながら よい ことば ない

(白楽天詩集 … 武部利男の日本語から)

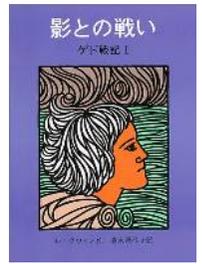
やっぱり おかしいよ なお

もうひとつ疲れる原因は、はつきりしています。4月から介護保険・医療保険・自立支援法などの「制度改定」では、厚生官僚の恣意的指示で、弱いものイジメがされています。私も自分の意に添わぬイジメに加担している訳で、このふた月本当に気疲れしています。建前は美辞麗句で飾られても、本質は一番数の多い層の人の制度利用を引き剥がす事で、健康はお金次第と身に染みて分かるのが目的らしい。それにしても足を引っ張りつつ「自立支援」や「予防介護」もないものです。反抗しない末端の役所や現場の係員を通じて、反論できない弱い利用者をイジめる構図は何処まで続くのでしょうか。塩ジイと言った元大蔵大臣が、国家予算を例えて「母屋でお茶漬だけで済ませているのに、離れではすき焼きの宴会だ」と云いました。さらに問題な制度は改革せず費用の徴収方法だけを弄り回したので、私達の医療保険ルールは、次々と増改築をした建物のように、まともに使うこともできないバリアだらけです。2階3階に追いつけられハシゴを外され、さあ飛び降りるなりと勝手にしなさいと、度々「大改定」もあります。お金を浮かすために、信頼が基本であるべき制度を次々と壊してゆく姿勢は、「拝金主義」が賞賛から一転非難されるあの人達と何ら変わらないでしょう。理念が制度を作る時代ではなく、打算で制度を手直し続ける、この国の未来は やっぱり。

真の言葉を見つける

好きな本の中から「ゲド戦記」を紹介しましょう。この夏にアニメ映画の形にもなります。

「真の名前」が重要な意味を持ち、太古の言葉が魔法の力を発揮する世界の物語です。第1話は、自分の慢心から生じた「影」に命を狙われ逃げる主人公が、悩み苦しんだ末にこれも自己と受容し、逆に影を追跡し、戦い決着をつける話です。私達の世界も、本来は力を持つ言葉があったはずですが。



ことばは沈黙に

光は闇に

生は死の中にこそあるものなれ (文中より)

縁起でもない話をするのは大切かも

亭主関白と見える老夫婦の会話に飛び入り。

(さて、誰がどう言ったのでしょうか)

「夜通し呼ばれて起こされ、私が死にぞうです」
「先に死なれては困るでしょう」「へへへ…!」
「一分でも先に死ななきゃねえ」「ハハハ!」
「四十九日でもう寂しいと呼んでも困るね」「ホ」「私、呼ばれても3回思までは逝きません」「…」
亭主関白は、させてもらっているという印象でした。妻に介護され見送られる設定は幸せです。その後の妻が、どう家族に見送ってもらえるかが、かなり難しい設定になるのが、現代のテーマです。

命をつなげる語り合い 当たり前前に

内藤いづみ 講演会 「いのちをつなぐ営み」

今こそ看取りを皆で考えよう

7月2日(日) 13時~15時

三重県教育文化会館(津市駅前)にて



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp

HP <http://tcp-ip.or.jp/~takuro>